感じることもありましたが、「まだまだできる！」という気持ちもありました。そこで起業を思い立ったんです。

「やればできる」と 43 歳で母校の専攻科へ

私は、市立沼津高校衛生看護科の第 1 期卒業生なんです。看護師への憧れのようなものはなかったんですが、当時は奨学金がもらえたので、親に迷惑をかけずに済むなと思って選んだんですよね。卒業後は、准看護婦として沼津市内の病院に勤務した後に結婚、その後は専業主婦として 15 年以上子育てに専念していました。

子育てが一段落し、再び働き出したのは 36 歳のとき。漠然と老人看護をしてみたいと思い、富士市にある精神科単科の鷹岡病院に入職したのは 39 歳のときでした。勤め出すと、もっと上を目指したい、もっと知識を得て患者さんにいい看護をしたいという気持ちが生まれ、正看護師免許を取得するために母校の専攻科へ入学したんです。それが 43 歳のときのことです。

受験勉強は 1 年かけてしましたが、大変でしたね。今日は国語、明日は看護の勉強と数学、というように、プログラムを自分なりに立てて計画的に勉強しました。看護師の仕事や家事をこなしながらだったので、夜の 8 時から 11 時頃まで集中的に勉強し、休日は 1 日費やして勉強、という感じで一生懸命やっていました。

当時の思い出としては、高校生だった娘が「お母さん、お母さんの苦労はよく見てるから、落ちても私がご褒美をあげる」と言ってくれたこと。私の姿が子供たちにいい影響を与えていると思って、気持ちが少し楽になりましたね。

入学してからも、真剣に勉強しました。無遅刻無欠席で、風邪も引かなくて。もし休んでしまったら、この先生のお話はもう二度と聴けないという意識がすごくありましたね。だから、風邪は卒業した途端に引きました（笑）。仕事も辞めて勉強に専念していたので、クラスメートはみんな私のノートを使って試験勉強していました。懐かしいですね。43 歳の生徒を受け入れたのは学校としても初めてのことだったそうですが、卒業式では答辞を読ませてもらったりもして、今ではみんないい思い出です。

学生に戻って実感したのは、やればできるということ。若い子みたいに一夜漬けはできないけれど、何回も繰り返すことでだんだん暗記力もついてくると感じました。年齢は関係ないですね、やる気があればできるんです。